

## 平成21年度第2回 山口県教育振興推進会議 (概要)

1 日時 平成21年9月16日(水) 10:00~12:00

2 場所 県庁共用第2会議室

3 概要

### (1) 「新学習指導要領実施上の手引き」骨子(案)について

ア 別添協議資料「新学習指導要領実施上の手引き骨子(案)について」(P1~4)に基づき事務局が説明  
イ 意見交換

#### □ 「各教科、領域の改訂・指導改善のポイント及び実践例」について

- ・P8の実践例について、この指導案の形式は、旧来からの形式であり、新学習指導要領のポイントを反映した形式で示すことはできないか。工夫の余地がある。
- ・山口県らしい教育の視点を実際の授業でどう反映させていくのかが課題である。指導案等で示すときにP6・7の内容をさらに反映させる必要がある。数学ならではのよさや子どもたちの実際の活動が記載されるとよい。
- ・現場の先生方は、イメージが描けないと取り組みにくい。指導案以前に単元全体をどう流していくのかを示すことが大切。単元全体の中でどこで位置づけるのか、体験的なものをどこで位置づけるのかなどが必要。

#### □ 「3つの基軸を柱に各教科・領域で進める場合のアイデア」について

- ・企業において、成功する人生を歩ませるには、目指す方向性を明確に示すことが大切。また、あいさつ、返事など、一から教えることが大切。
- ・キャリア教育は義務教育からではなく、家庭教育からだと思う。やる気、学習意欲等、ゼロから親が育てることが大切。
- ・キャリア教育は、一人ひとりの夢の実現からきている。キャリア教育を部活動等まで広げて推進することは良いことであるが、早くから自分の人生を簡単に決めて失敗をしないよう、広いとらえ方が必要。
- ・約10年前のベネッセの調査では、小4くらいになると自分の夢がなくなるという結果が出ている。子どもたちは、夢をもつことで成長するが、4年生くらいになると、周りが「できるわけがない」などと、夢を摘んでしまう。家庭の中も同様。学校の中で子ども同士、仲間同士の中で夢を認め合う環境ができないか。
- ・例えば、「日本として教育をどう考えていくか」、「山口県としてどう考えていくか」、「学校としてどう考えていくか」、「教師個人としてどう考えていくか」が大切であり、言葉がたくさん出ているが、一人の先生はどうしたらいいのか、混乱しないようにする必要がある。
- ・縦軸、横軸と概念が入ってくる前に教師の意識を高めないと、根のはらない教育になってしまうのではないか。県教委の取組がしっかり伝わるようにすることが大切。教師の理解をどう進めるかが重要。
- ・図柄等すぐわかりやすい。子どもたちの夢の実現に向け、すばらしいスタートができると思う。
- ・学校も忙しいとは思いますが、地域との連携を考えれば、地域の文化にふれる活動等に、子どもたちを積極的に参加させて欲しい。また、人間的なゆとりや柔軟性をもって接する教師であってほしい。
- ・この図はとてもわかりやすく、こういうものを幼稚園にも欲しい。
- ・幼稚園では、本来、「人との関わりと育ち」、「人間力」という言葉を大切にしている。また、遊ぶことから「まねる」→「まねぶ」→「まなぶ」と変化させていくことを重要視している。
- ・P3縦糸、横糸の図に教育課程外の部活動等とあるが、「等」の部分具体的に。朝の会、帰りの会、給食の時間等で様々な実践がある。これらを入れていただくと、取り組んでいる学校の背中を押すことになると思う。
- ・キャリア教育の推進で、「自分がしたいこと」は主観的なこと、「社会が求めていること」は客観的なことであるが、「自分ができるところ」は主観と客観が交錯するところであり、指導することは大変難しい。中・高生は自分が何に向いているかわからない生徒が多い。その原因として、自分を固定的に捉えている(自分はこういう長所と短所がある)点あげられる。もう一つは、自分は何々に向いているといった、ある側面だけをとらえている傾向がある。これらを崩すような柔軟な指導が必要である。
- ・「自分ができるところ」は「自分にできること」「自分なりにできること」に変えたらどうか。
- ・伝統・文化については、過去だけに目が向くことのないように。自分自身が現在、どういうふう活用するか、そして、いかに生み出して、創造して生きていくかが重要である。現在や未来へ向かう指導が大切である。
- ・「伝統とは何か」については、多様な解釈があるので、これが、「山口県の伝統文化教材集だ」とおしつけない。各学校において、取組のきっかけとなるものが望ましい。名称も「素材集」くらいがいいのではないか。
- ・教育はコミュニケーションそのものであり、伝え合う、認め合う、高め合うといった関わりの視点はそのとおりだと思う。「学び合う」ことは、協働の精神を養うことであり、教育そのものである。

## (2) 「家庭での指針」(仮称)について

### ア 別添協議資料「『家庭での指針』(仮称)」の作成について」及び参考資料「平成21年度全国学力・学習状況調査結果」に基づき、家庭での状況について事務局が説明

#### イ 意見交換

- ・地域と関わってこそ家庭がある。地域や社会と関わりのある項目があるとよい。
- ・幼稚園の先生や保護者に指針案についての意見を聞いたところ、「①生活リズムを整えよう」に「身だしなみ」「②基本的な生活習慣を身に付けよう」に「食事の仕方」「返事をする」「靴をそろえる」「③社会のルールやマナーを身に付けよう」に「校則を守る」「人の話を聞く」「思ったことが言える」「時間を守る」「④家族のきずなを深めよう」に「年長者を大切に作る」「⑤学習習慣を身に付けよう」に「低学年のうち、親も一緒に勉強する」「本を読む」「⑦外遊びで汗をかこう」に「友だちと関わる」を加えてはどうかという意見があった。
- ・企業家が教育を忘れていた。昔は、企業で必要なスキルを教えていた。本社でも研修を始め、社員に毎日家で1時間机について、勉強するように仕向けたところ、子どもたちも、テレビを消して一緒に勉強するようになり、家庭ががらりと変わった。このように家庭教育に企業を巻き込む方策についても考えてほしい。
- ・家庭の中では、父親が安定していることが大事。今は不景気で父親は疲れている。父親が安定していれば、家庭も安定する。また、母親への呼びかけを入れてほしい。母親が、子どもをほめれば、どんどん伸びていく。その他、冷蔵庫に貼るなどして子どもと振り返られるような形にするとよい。
- ・さらに、具体的にかみ砕いたものにするとうい。内容として「⑧様々な体験活動しよう」に「異年齢の子どもたち同士の関わり」「地域の行事へ参加」やどこの項目でもよいが、「自己肯定感を育てる」という内容を入れてはどうか。
- ・メディアとのつきあい方は、今の現実でよいのだろうか。テレビやゲームのルールを作ることは毎回言われていることであるが、今のテレビを見ているとこれでよいのだろうかと感じる時が多くある。家族との話の中で、「これは、どう思う」というような話題が出るようになるとよい。
- ・配布対象が、小・中学校となっているが、生活習慣ということを考えてももっと前も対象にしてはどうか。

## (3) 教育委員会の点検・評価について

### ア 別添協議資料「平成21年度 事務事業点検・評価結果報告書(案)」及び「平成21年度全国学力・学習状況調査結果」により本県の状況及び学力向上に向けたこれまでの取組について事務局が説明

#### イ 意見交換

##### □ やまぐち教育応援団関係

- ・経済同友会には200以上の企業が所属しており、是非協力したい。教育に関わりたい、声をかけていただきたいと考えている企業は多いが、学校行事等で十分な時間が取れないことが多いようである。
- ・やまぐち教育応援団の登録事業数が目標値を大きく下回っているが、声のかけ方が悪いことが登録数が少ない原因の一つと考えており、今後、努力していきたい。

##### □ いじめ・不登校関係

- ・SC(スクールカウンセラー)配置は良いことだと思うが、実質評価は別の問題である。SC一人あたりの対応する時間が減ることがあってはいけない。

##### □ 国体関係

- ・特定の競技だけに偏らないような取組が必要である。また、県民の関心はどこにあるのか把握する必要がある。
- ・競技力だけのためだけでなく、ふるさとのスポーツについて、今の国体の在り方を県民が理解する必要がある。

##### □ 学力の向上について

- ・学力テストについては、傾向を分析し、基本的な取組を重点的に支援すること。全体的には着実に効果が出ている。